

交流プロジェクト活動の実施



この事例のポイント

- ・大学生との関わりや遊びの機会を通した学びや仕事への関心と理解
- ・学生が自ら考え企画して、率先して参加し、地域社会や子どもと関わる学びの機会

この取組を行った背景や目的

親子を大学に招待することで、大学を身近に感じてもらうとともに、親子との関わりや遊びを通して、学生自身にとっての体験的な学びの機会となることを目指しています。学生が自ら考えプロジェクトとして主導することで、保育者の目線から子どもとの関わり方を学ぶとともに、実践の場としても学ぶ機会となっています。

実施した内容 TFU kidsプロジェクト

「ようこそ絵本の世界へ-絵本の世界でミッションに挑戦！-」

対象：就学前の子どもとその家族

方法：教育学科幼保コースと社会福祉学科保育士課程では、OST（オープンスペーステクノロジー）を実施し、自らの課題解決に結びつくプロジェクト活動発足を促しています。その中で、「ワクワクドキドキ体験を多くの子ども達に!」をテーマにイベントや遊びを提供するために立ち上げられたプロジェクトにおいて、子ども向けイベント「ようこそ絵本の世界へ」が開催されました。
(2024年12月実施)

内容：プロジェクトにおいてこれまで活動してきた経験をもとに、学生のホームである大学へ親子を招待する念願のイベントとして多くの関係者の協力を得ながら開催することができました。

子どもに人気のある3つの絵本、「ぐりとぐら」「にじいろのさかな」「バムとケロ」の世界をテーマにした装飾を施した部屋を順番に巡り、それぞれの部屋で体験型ゲームのミッションに挑戦するという趣向で行われました。手作りを基本とし、人の手のぬくもりを感じられるアナログさを大切したく、イベントに参加後も、ごっこ遊びやつもり遊びにつながるイメージ豊かな遊びを大切にしたいと願いを込めて、学生が計画し、運営に当たりま



実践するためのヒント

○実施体制について

⇒学生がやりたいと考え、企画から参加し、運営に携わることで、積極的な交流事業への参加が期待できます。また、広報や教務、学生支援等との連携がなしには実施は出来ませんでした。